

古文書倶楽部

【発行】
秋田県公文書館
2020. 5
第95号

米代川道中記 「米代川絵図」をたどる



(図1)「米代川絵図」(A290-114-113 85cm×337cm)

当館には、秋田県北部を横断している米代川の全景を見ることが出来る「米代川絵図」(A二九〇一―一四一―一三)があります。長さが三メートルを超える見応えのある絵図です。川幅や水深、用水路と引水のための関根も見られ、付箋には様々な情報が書かれています。図1の右側が南部藩領であった鹿角方面で、左側が能代湊方面です。図2には南部領土深井周辺の米代川の中に南部藩と秋田藩の境界が点線で示されています。度重なる洪水の度に紛争が起きていたため、延宝五年(一六七七)に幕府の裁許により米代川の真ん中

「古文書解読講座」は六月下旬から七月中旬に開催の予定ですが、新型コロナウイルスの影響により変更になった場合は、ウェブサイトや館内にてご案内いたします。



図2

に藩境を確定したものであり、これは国境でもありません。国道七号線沿いには「南部・秋田藩境」の標柱が立てられています。



図3

ここから下って大館市に入ります。米代川にいくつもの関根留を築いて米代川から取水している様子が見られます。山館村では「関根留長百五拾七間」の長さに及ぶ関根留を築いています(図3)。周辺の村にとって米代川からの用水はかけがえのないものであったでしょう。



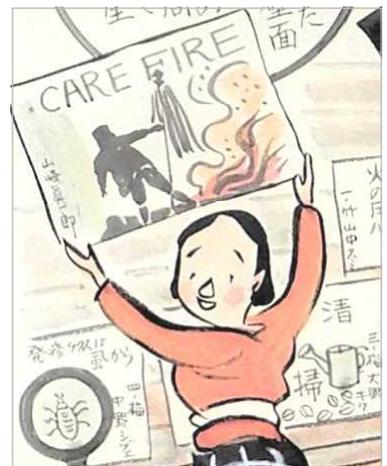
図4

さらに下って、支流である阿仁川と藤琴川が合流する間にある二ツ井のきみまち坂(畜生坂、のち郭公坂、馬上坂、俣后坂)周辺に辿り着きます。図4で見られるように、羽州街道は荷上場と小繫間で藤琴川と籠山に遮られていたため、米代川の舟運に頼ることになりました。また、籠山南端のきみまち坂と七座山に囲まれているため、川幅が狭く大きく蛇行しており、多くの通行人にとっての難所でした。津軽藩主が参勤交代でこの場所を利用した際には、無事に通過したことを飛脚を使って国元に知らせる程だったそうです。また、吉田松陰も雪解けの洪水に遭い、藤琴川を遡ってきみまち坂を越えた事を日記に記しています。このように、米代川と人々との関わりを絵図を見ながら思い描いてみてはいかがでしょうか。当館には多くの絵図がありますので、閲覧室の「絵図検索データベース」やインターネットでの「デジタルアーカイブ」などで自由にご覧いただけます。是非ご利用ください。【一 関修二】

県地方事務所の普及ポスター 〜終戦後の秋田の農村を漫画化〜

「山崎文庫」は、秋田県職員で郷土史研究家でもあった山崎眞一郎の旧蔵資料です。山崎が昭和二十年から二十二年（一九四五〜一九四七）に山本及び平鹿地方事務所（現・地域振興局）に勤務していた頃、制作に関わった普及ポスターの原画が四点含まれています。作画は、戦前から横山隆一や清水崑らと共に活躍していた漫画家の池田さぶろ（本名・池田三郎）に依頼しました。

今回は四点の中から、昭和二十一年十月に作画された「清掃美化運動ポスター」（山九五五）を紹介しましょう。終戦後の日本は、戦災によるインフラ設備の破壊や荒廃、また戦時中の衛生行政機能の低下により、衛生環境が極度に悪化した状況でした。また、各地の学校では、戦災や終戦直後の混乱、物資不足などから、児童の衛生指導や校舎内の美化も行き届かない状況でした。



当時、GHQは発疹チフスやコレラなど伝染病の蔓延を問題視し、媒体であるシラミほかの駆除を各府県に指示していました。このポスターも、秋田県の地方事務所が、所管する町村に衛生環境の向上を普及するため制作したと考えられます。

右の漫画は、学校を美化するため、廊下の壁面に先生や生徒の描いたポスターを掲示している様子です。火の用心を「CARE FIRE」と描いている所に、米軍進駐下の時勢が反映されています。また、生徒名を「山崎眞一郎」と書いていることから、池田さぶろのユーモア感覚もうかがえます。

一方、下の漫画は、子供たちが道路を清掃し、抜いた雑草を集めて堆肥の元にしていく様子です。霜降色の学童服姿で坊主刈りの男児が「フジサンヨリタカクツンデヤルゾ（富士山より高く積んでやるぞ）」と雑草を受け取る下で、もんぺ姿でおかつぱ頭の女兒が落ち葉を掃いています。終戦の翌年も深刻な食糧不足が続き、農作物増産のため堆肥の増産も地方農政の重要課題でした。



「新憲法漫画いろは歌留多」（国立国会図書館蔵）に能代第一中学校が出ており、また昭和二十年の「供出米まんが絵解き」（山一二五）に「山本地方事務所案」と記載されていることから、池田さぶろが終戦後に秋田県内に居て、地方事務所から作画を依頼された可能性が考えられます。

当館では池田さぶろの原画として、他に「児童生活指導漫画」（山八六三）と「道路愛護マンガ双六」（山九五七）を所蔵しています。両方とも昭和二十二年の作画で、山崎眞一郎が平鹿地方事務所に勤務していた時期のもので、当館所蔵の池田さぶろの作画四点は、いずれも農村の生活をモチーフに描かれており、GHQや政府の政策を県民に普及する目的でありながらも、どこか温かみを感じさせる穏やかな画風です。また、資料が少ない終戦直後に関して、秋田県内の農村の人びとの暮らしを漫画の形でビジュアル化して伝えている大変貴重な資料と言えます。【柴田知彰】